



笑う門にはマスクド来る

リーダーのマスクド767(後列左から2人目)と、副リーダーのマスブチ仮面(右から3人目)を中心に、多士済々なメンバーが集う。

マスクド軍団の活動は、右記二次元コードから確認できます。問い合わせはInstagramから。



「自分たちにできる地域貢献をモットーに、いい年した大人が本気で楽しんで活動しています」と、リーダーのマスクド767は照れくさそうに語る。

マスクド軍団は、登米市を中心に活動するパフォーマンス集団。地域のお祭りやイベントに登場(時には乱入)しては、コントやトーク、はやりの曲に合わせたダンスなどを披露している。覆面レスラーさながらの奇抜な姿に、観客は初めこそ驚くが、コミカルで親しみやすい彼らの雰囲気は心をつかまれ、気が付けば笑顔になっている。20人以上いるメンバーは、年齢も職業もさまざま。普段はそれぞれの本業に精を出しながら、イベントごとに都合のつく団員が集まり、出演している。

軍団結成のきっかけは7年前。市内のとあるイ

ベントの盛り上げ役として、有志数人がマスク姿でステージに立ったこと。その後、メンバーの入れ替わりを経ながら、2022年に現在の主力メンバーがそろい、活動が本格化。観客の口コミやSNSの発信から多くの出演依頼が寄せられるようになり、同じイベントに2度、3度と呼ばれることも増えた。「ゆくゆくは、『登米市と言えばマスクド軍団』と言われるような、まちの名物になることが目標ですね」。そう話す副リーダーのマスブチ仮面は、マスクの奥に笑顔をのぞかせる。

こどもからシニア世代まで幅広く楽しめるステージの秘訣は「自分たちが一番楽しむこと」。正体不明の覆面集団は、今日もどこかで笑いのリングに立ち、観客の心に全力勝負を仕掛けている。

### 編集後記

▼新年らしい写真を撮ろうと、3人それぞれ伊豆沼へ。野鳥の群れが日の出とともに一斉に飛び立つ瞬間を初めて目にして感動。ただ、頭の上を飛ぶ大群に「怖いよ」と涙目の私。周りにいた皆さん、ご心配をおかけしませんでした。表紙は添田撮影です。(渡邊)

▼笑顔の写真は見ている側も明るい気持ちになるもの。広報の写真撮影では、笑顔を引き出す声かけを意識しています。とはいえ、特別な技術も話術もない私の場合は、とにかく明るく「いいね!」「サイコー!」と連呼するばかり。お薦めの声かけ方法があれば、ぜひ教えてください。(添田)

▼k h bみやぎふるさとCM大賞の審査発表会に参加。制作者は、市に応募していただいた中田町の千葉守さん。市内で見かけるあのポスターを題材に、趣向を凝らしたCMとなっています。千葉さんと添田が出演した審査発表会の様子は1月3日午後4時から放送です。お楽しみに。(高橋)



登米市公式ホームページ  
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス  
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)  
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE  
(市政、イベント情報などを配信)  
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>